1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100113		
法人名	晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム中山ちどり		
所在地	兵庫県土塚市桜台1-7-1		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	2015年 5月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして、家庭的な雰囲気作りに努めています。またお一人お一人のこれまで歩んでこられた生活を重視し、個別ケアに力を入れています。
食事の際に使用するおしぼり作りや、お茶碗洗いなどをご利用者の方に日常的にさせていただいております。両ユニットの間にはテラスがあり、季節ごとの花々を楽しまれたり、じゃがいもなどを栽培し、収穫されたものを調理で使用しております。中庭にてお茶などを楽しんで頂き、いつでも外の空気に触れられる開放的な空間作りに努めております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム、短期入所、ケアハウス、デイサービス、地域交流スペースなどのある北館に対して、小規模事業所とグループホームが南館に位置している。傾斜地にあり、歩いて地域へ気軽に出かけるには難しい分、法人として、地域との交流に力点を置き積極的に関わっている。事業所開催の夏祭りは、地域恒例の行事ともなっており、老若男女が100人規模で参加し盛大に催される。道路を挟んで向かいの保育所の子どもたちとも定期的に交流し、利用者たちを和ませてくれている。法人を含む地域での防災に対する取り組みは熱心で、福祉避難所としての役割を持つ法人の存在意義は大きい。今後、ますます職員のスキルアップにも励み、内外ともに素晴らしい事業所であっていただきたいと期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で安心安全に生活できるグループホーム作り」を理念として掲げグループホームとしての役割・意義などを職員に周知させおります。スタッフ会議、ケースカンファレンスなどでご家族、ご利用者の意向の周知を図り、利用者の意向を尊重し、日々の介護に反映させることに努めております。	法人の理念の基、グループホームとしての意義を常に意識して年間目標を作成している。年頭の運営推進会議で、口頭で利用者、家族に知らせるとともに、職員で周知徹底している。事務所内に掲示している。	利用者、家族への周知も含め、事業所内にも大きく明示されてはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流委員会を通じ、コーラス、演奏会、南京玉すだれやボランティアの方に蕎麦打ち実演を実施していただきました。自治会の季節行事(夏祭り・花見など)に積極的に参加しております。	地域交流委員会を中心に地域交流は盛んである。レクリエーションのボランティアの受け入れ、地域の夏祭りへの参加の他、年1回、介護教室の講師役を務めたり、小学校で子どもたちに車いす介助の方法などの紹介も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方にご参加頂き、認知症ケアについて事業所として取り組んでいる内容などを報告しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや、検討内容については、スタッフ会議を通じ職員に伝え、検討し実施しております。	利用者、家族、行政、地域包括、自治会長、知見者が参加している。「家族の参加が少なく、もったいないのではないか」と意見が出た。開催日を事業所内に掲示したり、担当者会議と合わせて開催してみるなど検討している。	詳細な議事録となっており、全利用者の家族に配布され、運営推進会議への関心を喚起されてもいいのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	骨折等が起こった際は、速やかに行政に事故報告をさせて頂いている。来訪の際には、サービスの状況を説明しております。	運営推進会議への出席を得ているほか、事業所は事故報告などで担当窓口を訪ねることもある。日頃は電話などの連絡が主であるが、必要に応じての連携体制はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に身体拘束禁止の社内研修を行っています。また4点柵や抑制帯などの方法を取ることなくケアしております。またユニット間の往来も自由にさせていただき、自由に移動出来る様にしてあります。やむを得ず、抑制帯などの拘束をしているご利用者に関しては、毎月南館会議で取り上げ、抑制帯を外す方向に向けて、見直し話し合いを行っています。	抑制帯利用者に関しては同意書を取るとともに、外す方向で話し合いを毎月行っている。転倒防止対策としてセンサーマット8台を使用している。個々のケースを検討し、使用時間や使用の必要性なども話し合っている。	センサーマットが身体拘束に当たることの認識を再度確認し、必要の有無も含め、常態化を防ぐためにも早急に検討していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する施設内研修を実施し、虐待防止委員主催の研修会に積極的に参加し虐待事例などを通して研鑽を行っている。	夜間などの人眼がない時、対応に追われ余裕がない時に虐待が起こる可能性を、管理者は常に意識している。日頃から声かけし、職員のストレス解消を図るとともに、職員同士が不適切ケアになりそうな時、互いに注意するようになっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職前の事前研修や施設内研修で権利擁護に関する研修を実施しています。	成年後見制度、日常生活自立支援事業について、法令研修で学んでいる。現在利用者はいない。利用者、家族への情報提供として、閲覧用のパンフレットを用意している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や見学時にご家族・ご利用者の状況についてお話をお聞きする中で、サービスの内容や、方針を伝えております。その中で、疑問や不安に思っていることをお聞きし、入居後のサービスに反映させる事や、介護の方針などについてもお伝えしております。	見学は随時受けている。利用者の見学が難しい時は、利用開始近くでの訪問も行っている。利用料金、入院時について、外出や外泊、面会などについての質問が多く聞かれる。丁寧に答え、納得の上の契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議、日々の面会などご家族とお話させていただく機会を持ち、ご要望をお聞きしたり、現状の報告などを行っております。	「レクリエーションで使う歌詞カードを、収納せず、共有スペースの新聞ラックに入れておけば、いちいち職員さんに頼まなくて便利では」との提案を受け、早速改善した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やカンファレンスにおいて意見や提案を聞く機会を持っています。また係長以上のものが参加する運営会議を月に1度開催しており、各部署の現状等を報告しています。南館会議では施設長も参加されている。	朝の申し送りなどでも活発な意見が出る。食事形態についての提案や、法人からのおやつをユニットごとに分けていたが、「分けずに一緒に食べればどうか」と提案があり、改善したところユニット間の交流も深まり良い結果となった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の取り組みとして人事考課制度を採用し、年2回の自己評価や上司との意見のやりとりが出来る場を設けている。また労働時間・希望勤務や休みなど柔軟に対応し、就業しやすい状況を作るよう努力しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講は勿論、内部研修を多く行うことにより、職員全員の意欲向上に努めています。また日頃の就業や行事にも指導を行っています。2ヶ月に1度、南館勉強会を開催し、認知症ケアの質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研究発表大会では他部署の取り組みと成果を知り意見交換している。運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方にご参加頂き、サービスの内容など報告しております。参加している同業者と会議を通じて交流し質の向上に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望のある方には傾聴させて頂いたり、外に散歩に出かけたりとその方一人一人にあった対応、レクリエーションを行うことで職員との信頼関係を築いています。入居後ご利用者の様子を観察、また家族様のお話をお聞きする中で、本人様の望まれることを把握し日常のケアに反映させております。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、見学、入居当初、ご家族が不安に思っていることについては、時間をとり、お話をさせていただき、不安の解消に努めております。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族に記入いただいた、「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご本人の趣味・性格・週間などについて」を参考にまたご家族やご利用者との話し合いや生活状態を観察する中で必要なサービスなどを見定めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者の方が家事の分担を図り、洗濯のたたみ方・干し方など教えて頂くこともあり、人生の先輩として尊敬し、頼り頼られる関係作りができています		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとには、極力参加して頂けるようご案内をするなど努めています。またご来訪された際にはご利用者ができることをお伝えしたり、問題に対して相談するなどの形をとり、共に解決していくようにしております。運営推進会議等でもご家族の不安や悩みについてもお聞かせ頂いています。外出や、食事介助等、積極的にご協力していただけるご家族もおられます。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お身内の方を中心に自由に面会いただいております。またご家族と外出するなかで、なじみの場所にも外出しておられます。	家族の協力で行きつけの美容院に行く人、毎週1回昼食外出をする人もいます。デイサービス利用者と顔見知りで、訪ねてきておしゃべりを楽しんでいる。昔よく行った地域の催し物へ参加する人もいます。職員は関係性の継続への支援を心がけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション(カルタ取りやリハビリ体操)などを通して仲間意識を深めていけるような支援をしています。また食事、おやつ等では一緒に召し上がっていただき、レクリエーションでも無理強いのないように、共に実施していただくようにしております。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に感じ状況の把握に努め、特別養護老人ホーム・ケアハウス・ショートステイへのご利用を提案したりしております。また、特養・ケアハウスなどの相談員と日頃より密に連絡を取り合い、情報共有に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の今までの暮らし方などをお聞きし、また入居前の面談や入居後のご利用者、ご家族とお話を通じケアの中身を考え、またケアの方針を考えております。また日頃の様子を拝見する中で、カンファレンスなどを通じ、ご本人へのケアを検討しております。	居室担当が日頃の会話の中から聞いたり、思いを把握するようにしている。利用者本人と家族の意向にずれがある場合、職員が良い意味での介入を図り、利用者の思いを優先している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の今までの生活習慣や趣味などをお聞きし、また入居前の面談や入居後のご利用者、ご家族とお話を通じこれまでの生活、環境の把握に努めております。また必要時にはこれまでご利用されてきたサービスの関係者に状況をお聞きする事もあります。さらに入居時「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご利用者の趣味・性格・週間などについて」をご家族にご記入いただき、これまでの様子を把握するように努めております。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量や水分量、バイタル測定を含め毎日の申し送りや居室担当を交えたカンファレンスとモニタリング、診療所との情報交換など多角的に情報を収集し、把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当の意見や、看護師・医師からの報告、バイタル・体重・水分食事摂取量などの情報はじめ、他部署との連携を図ったりする事で介護計画の見直しなど行っております。	入所後1週間は暫定計画を立てている。その後、利用者、家族の思いと医療関係者や職員の意見などを参考に介護計画を作成している。モニタリング、計画の見直しは半年ごとに行っている。退院後や緊急時はケースカンファレンスで検討し、計画の見直しを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や入浴日、排泄時間、水分量、バイタル値などを記録し、いつでも職員が確認できるようにしております。その中でご家族や医務、職員の提案などを取り入れケアに生かしております。また水分量が少ない方には、好きな物をお出しし、召し上がって頂くように工夫しており、食事量も少ない方には栄養剤を提供し栄養面の補充をしております。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の理髪希望や買い物、散歩の希望など、可能な範囲で実施できるよう、柔軟に職員の仕事内容を変更しております。また、小規模多機能型サービスなどの他部署とも連携し、共同でレクリエーションも実施しています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる演奏などの催しや、地域のグループホームに対してご理解を示して下さる飲食店を把握し、利用させていただいております。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	中山ちどりでは、施設内にある晋栄福祉会診療所があり、定期的な往診による状態把握が可能です。また、今まで通っておられたなじみの医療機関を受診されている方もおられます。緊急時については宝塚第一病院と協力病院の契約をしており、対応について協力いただいております。	これまでのかかりつけ医の受診を継続している人もいますが、多数は法人嘱託医を利用している。普段の健康管理から、急な状態変化にも速やかな対応が確保されている。他科受診については、基本家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違ったご利用者様の様子を見落とすことなく、数値的異常、又は体調不良・皮膚疾患などみられれば、同じ敷地内にある診療所に連絡し、すぐに診て頂けるように連携を図っています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院として宝塚第一病院と契約しております。入院されたご利用者がおられる場合は病院SWや病棟看護師等と状態の確認をさせていただき、早期にまた適切な状態での退院が出来るように努めております。(宝塚第一病院以外の医療機関でも同様)	法人内嘱託医と協力医療機関との密な連携体制が整備されている。日常的に感染症予防に努めるとともに、些細な状態変化にも応じた速やかな受診により、入院回避を図っている。入院時は職員が見舞いに行き、安心して治療できるよう声かけを行い、早期退院につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要の際には見取りを含め終末期のお世話の方法などご家族や看護師を交え相談し、意思や対応等の統一を図っております。またターミナルに際しての対応方法など必要な方へのケア内容、対処基準など、職員に周知させて頂いております。(看取りケア) また転倒などのリスクを踏まえ、今後重度化する可能性がある方のご家族には、日頃よりご様子をお話させていただくようにしております。	契約時、又は状態悪化等に応じて利用者、家族の意向を確認、医療関係者との連携により、家族が共に寄り添える環境を用意している。職員は研修で学んでおり、すでに看取りの実績はある。家族が安心でき納得した看取りができるよう、家族へのメンタル面でのフォローも重視している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修を受けております。また敷地内に診療所を併設しており、夜間帯もオンコール体制による対応を行っております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、避難誘導などの実地訓練をしております。また昨年は消防署や地域と共同で防災訓練を実施したこともあり、市内の福祉避難場所として指定を受けております。	毎年、定期的な訓練を施設合同で実施している。利用者も一緒に避難経路を確認するなど、常に実践に即した訓練を行っている。今年度は、地域や市一体となった大規模訓練を実施するなど地域全体で防災対策を考える機会となった。福祉避難所の指定を受けており、今後も継続的な実施を想定している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や入職時の研修を通じ、また日頃のスタッフ会議の中で、注意点などを話し合い、職員の質の向上に努めております。	新人研修では排泄や入浴時での関わり方、内定研修や法令研修では日々の実践を通じたOJT研修により周知を図っている。基本は利用者を苗字で呼ぶが、居室への入室時の仕方等を含め、時には家族と相談し、適切な対応に努めている。利用者の身だしなみについては、特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ヘアカットや毛染めの訴えがあれば理美容の予約をさせて頂いたり、食べたい物、やりたいことなどになるべく応じることができるように努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様全員で何かをするのではなく、その方の好きなレクリエーションを無理強いのないように、少人数で行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケア時に口腔ケア・洗顔・整髪・洋服選びをご利用者と一緒に行っています。又衣類を汚された場合などはすぐに着替えて頂くようにしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食メニューが選択できる日もあり、魚・肉など、お好きな物が食べられるように支援しています又お誕生日などは、ステーキやお寿司などのメニューから、お好きな物を選んで頂いています。	併設施設厨房にて調理された食事が届くが、ご飯や汁物は事業所で作っている。月に2~3回は調理の日を設け、食べたい物を利用者と一緒に調理し、準備などの役割をになう人もいる。副菜が二者選択できる日もあり、利用者自身の好みを反映する機会もある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員食事を記録し、水分量の記録も実施しております。体重の増減に応じ、食事量の見直しや、診療所や栄養士の助言を取り入れたりしています。また嚥下状態に問題がある方にはトロミ剤・刻み食・ミキサー食などの食事形態を工夫し、召し上がっていただいています。栄養や食事が少ない方には濃縮栄養剤を召し上がって頂くようにしております。また水分量の確保についてもお好きな物を召し上がって頂くことで水分の確保に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には促しを行い、実施困難な方についてはポリデント等による消毒や歯科医師の指導のもと、口腔ケアを実施しております。スポンジブラシ、口腔ケア用品を使用し、快適に食事や会話ができるようにしております。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、ご利用者の排尿間隔を把握することで、適切な排泄が出来るよう支援しております。また訴えることができない方へも、間隔を見定め、声かけやトイレ誘導を実施しております。	確認が必要な場合は、定期的の下着で確認したり、トイレに行く時に付き添い、把握するようにしている。声かけや誘導が必要な場合は、個々のパターンからタイミングや表情により、早めに判断し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂っていただいたり、運動を毎日実施していただくことや、また長期排便のない方には医師とも相談の上、必要に応じて下剤、座薬を服用していただくことで便秘の予防に取り組んでおります。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬には暖房を入れ脱衣所と浴室の温度差をなくし夏には入浴前にしっかり水分を取っていただくなど体調管理を行いご本人の希望に併せた温度にゆっくりと時間を気にせず入浴を楽しんでいただいています	日々の体調管理のもと入浴利用となっている。自分から希望する人もあり、入りたい時に入浴してもらっている。利用者によっては、声かけによりお誘いすることもある。困難な場合は、他のことで誘うなど、なごやかな雰囲気の中で自然に導いている。概ね、週2～3回を目安としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切に考え、眠れない方はお茶を飲んでいただいたり、横に付き添い安心して眠って頂ける環境づくりをしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や目的を把握して対応しております。もし使用用途が不明な場合は医師・看護師に確認し、説明を受けております。また薬の変更についてはご家族に報告させていただき、ご安心頂くよう配慮しております。また薬の変更があった際には様子を把握し、Drに必要に応じて報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りやおやつ作り、配膳、食器洗い、洗濯たたみなど好きなことを手伝っていただくようにサポートしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くのスーパーでの買い物・中庭・屋上庭園などの散歩以外にも希望に添って図書館や園芸店または地域の祭りなどにも出かけられるように支援しています。	利用者の要望に応じて近隣スーパーへの食材の買い出しや馴染みの店での買物、併設施設の交流サロンへの参加等を行っている。気候のいい時期には中庭や屋上庭園への水やりなど、外気浴も兼ね外に出るようにしている。季節毎の花を見に行く機会も企画し、みんなで一緒に出掛けることも楽しんでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方のみお金を所持して頂き、外出の際は、自身のお金でお支払いしていただくようにしています。しかし、お金への執着や、取られ妄想、不穏になる可能性がある場合は、グループホームによる一時的な立替により、購入していただく場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は携帯電話を所持して頂き、いつでもご家族と連絡が取れるように支援しています。また、ご家族の声が聞きたいという希望があれば代わりにご家族に電話を掛けお話しして頂いたりもしています。また手紙が届いた際には本人様にお渡しさせて頂いております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は徹底した掃除を行い、清潔を保持しています。また玄関や中庭には季節の花が植えられ、四季の季節を感じて頂ける工夫をしています。室温管理はカーテン等での採光調整や、エアコンの温度調節を小まめに行い、快適に過ごしていただけるようにしています。また定期的な換気を実施し、空気の入れ替えを行う事で、感染症予防もしております。	玄関の椅子とテーブルやリビングのしつらえは、落ち着いた雰囲気を重視し、掲示物等についても控えめなレイアウトを心がけている。リビングから見える中庭の季節毎に彩られる花にほっとし、来訪者も癒される。個々に過ごせるソファも用意され、思い思いに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席以外にもソファがあり、くつろいでテレビを観たり、足を伸ばしてリラックスして頂ける空間を設けています。また中庭にはベンチを設置し、気候のよい日は暖かい日差しの中、ご利用者同士でゆっくりお茶でものみなから会話を楽しんで頂いたり、廊下の応接セットでは新聞や雑誌を読まれたりする趣味の場の空間も設けています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れたタンスなどを持ち込んで頂き、快適に暮らして頂けるように工夫をしています。またお部屋でもテレビが観られるようにテレビの設置やトイレまでの導線を確保したり工夫しています。	個々にベッド位置や家具の配置を工夫するなど、利用者の習慣や動線に配慮し、安心して生活できる環境に努めている。利用者自身が、花や写真を飾るなど、自分なりに居心地の良いレイアウト、雰囲気を大事にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はリビングを中心に設置されており、リビングから居室までは手すりを伝って行ける様に導線を確保してあり各居室前にはご利用者が見えやすい位置に表札をつけ、トイレがわかりづらい方には、トイレと書いた紙を貼ったり、足元灯を点けたり工夫しています。		